

# ECO エコ ひらいずみ

## ストップ! 地球温暖化

発行  
ひらいずみ地球温暖化対策協議会  
(略称：エコネット平泉)

令和3年3月1日

(事務局)平泉町役場町民福祉課内  
電話 0191-46-5562 FAX0191-46-3080  
メール chomin@town.hiraizumi.iwate.jp

## 激動の2020年をCO<sub>2</sub>の観点で振り返る

### 【新型コロナウイルスとCO<sub>2</sub>】

2020年、世界に最も衝撃を与えたのは、やはり新型コロナウイルス感染症です。世界中で多くの人が感染し、死者も多数出ました。また、経済活動も低迷し、ロックダウンなどの強力な措置が取られた国もありました。

このような中、国立環境研究所などが参加する国際共同研究「グローバルカーボンプロジェクト」(GCP)により、**2020年に世界で排出されたCO<sub>2</sub>の量が第二次世界大戦以来最も少なくなりました**ことが昨年12月11日、科学ジャーナル「Earth System Science Data」に掲載されました。**2020年のCO<sub>2</sub>排出量は2019年に比べて約7%、重さに換算すると約24億トン減少した**ことが、研究によって判明したということです。特に運輸業での減少が顕著であり、道路部門で前年比10%、航空部門では同40%と、大幅な減少になっています。

### 【CO<sub>2</sub>を出さない飛行機?】

新型コロナウイルス感染症のあおりを受けた航空業界より、昨年9月に興味深い発表がありました。欧州航空機大手のエアバスがCO<sub>2</sub>を出さない旅客機を製造する計画を発表したのです。同社はこの旅客機を2035年までに実用化したいとしており、燃料は液体水素を使用し、電力の供給には水素燃料電池を利用する計画です。

この飛行機は最大で200人を乗せて3,200 km以上航行できるということですが、現在は空港に水素を補給する施設がありません。機体の普及と同時に水素を補給するインフラ整備を進めることが必要となります。



### 【国内の動き】

化石燃料に代わる燃料として以前から注目されている水素について、2020年に新しいニュースがありましたのでお知らせします。

#### ＜地熱発電と水素＞

建設大手の大林組から、大分県内で地熱発電の実証プラントと水素製造実証プラントを建設する計画が発表されました。大林組はこれまでも、地熱発電が盛んなニュージーランドでCO<sub>2</sub>フリーの水素サプライチェーン構築の研究を行っています。そこで得られた経験を活かして今回の計画を進め、稼働開始は今年7月を予定しています。

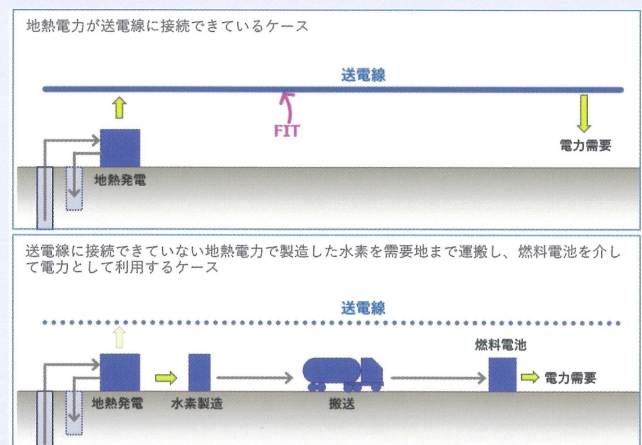


図1 地熱発電を利用した電力供給イメージ

出展：大林組

### ＜商用車の水素利用に新たな流れ＞

トヨタ自動車と日野自動車から燃料電池大型トラックの共同開発と走行実証について発表されました。航続距離600km を目標として開発され、アサヒグループホールディングス、西濃運輸、ヤマト運輸、NEXT Logistics Japanと共同で2022年春頃から関東や愛知県で実際に荷物を運搬する走行実証が予定されています。



### 【まとめ】

ここまで2020年に起こったことや発表されたニュースについてお知らせしてきました。いまだ新型コロナウイルス感染症の終息は出口が見えない状況が続いています。科学者の多くは、2021年は2020年に比べてCO<sub>2</sub>排出量が増加すると考えています。その1人であるオスロ国際気候環境研究センター（CICERO）の上級研究員ヤン・イーヴァル・コースバッケン氏によると、中国では既にコロナ拡大前と変わらない量のCO<sub>2</sub>が排出されていると考えられるということです。

遅かれ早かれ新型コロナウイルスによる感染症の危機は終息します。その後、アフターコロナともいわれる時代に突入していく私たちに重要なのは、再び化石燃料へ回帰するのではなく、持続可能なエネルギーへ投資することではないでしょうか。

## 温暖化の分析をする衛星…？

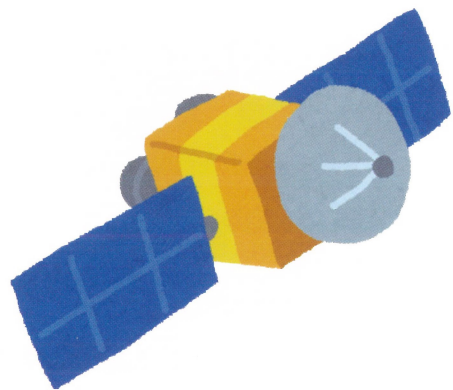
### 【温室効果ガス観測技術衛星GOSAT】

地球温暖化には二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスが関係しています。では、どのようにそれらの気体を観測しているかご存知でしょうか。

以前までは地球上で計測したデータを用いるしかありませんでしたが、実は日本の環境省と国立環境研究所、宇宙航空研究開発機構（JAXA）が共同で開発した人工衛星GOSAT（愛称：いぶき）が2009年から地球の温室効果ガス（二酸化炭素・メタン）の濃度を監視しているのです。これにより測定誤差が大幅に減り、より正確な情報が得られるようになりました。

### 【次世代のGOSAT】

2018年には初代GOSATの後継となるGOSAT-2の運用が始まり、現在も宇宙から地球上の温室効果ガスを監視しています。また、2023年にはさらにその後継となるGOSAT-GWの打ち上げが予定されており、高度な分析による地球温暖化対策の推進に期待が寄せられています。



参考URL：

[https://www.eorc.jaxa.jp/GOSAT/index\\_j.html](https://www.eorc.jaxa.jp/GOSAT/index_j.html)

(GOSAT Series(JAXA))



(執筆者：澤田)

## 視察研修報告

私たちひらいずみ地球温暖化対策協議会では、会員たちの資質向上と知見を広げる目的で、毎年視察研修を行っています。今年度は新エネルギーの活用などにより、先進的な循環型まちづくりに取り組んでいる紫波町のオガール関連施設の見学をしてきました。

### ①オガールプロジェクトについて

オガールは、フランス語で【駅】を意味する「Gare（ガール）」と、北海道・東北地方の方言で【成長】を意味する「おがる」を組み合わせた造語で、『オガールを出発点として、紫波が持続的に成長していくように』という願いが込められています。

○**オガールフラザ**…図書館、交流館などの町の施設のほか、学習塾、子育て支援センター、産直、居酒屋、カフェ、眼科、歯科などのテナントが入っていて、施設内には誰でも利用可能な音楽スタジオ、キッチンスタジオなどがある官民複合施設です。

○**オガールベース**…国内初のバレーボール専用コート「オガールアリーナ」、宿泊施設「オガールイン」や、コンビニ、薬局、飲食店などのテナントが入った民間複合施設です。

○**オガールセンター**…アウトドア用品店、美容室、パン屋、ジム、小児科、英会話教室などのテナントが入った官民複合施設です。

○**オガールタウン**…オガールエリア内の土地を分譲して形成される最新型の住宅街。タウン内の住居は、地元の木材を地元の職人が使用して建築をするエコハウスになっており、紫波町産木材の利用率は驚異の80%!



### ②紫波町の循環型まちづくり

紫波町は2000年に「新世紀未来宣言」を発表し、様々な取り組みをしています。

資源循環として、「えこ3センター」という施設を運用しており、町内で排出された生ごみをたい肥化し田畑で利用、その田畑で生産された作物を町内で消費するという循環を実現しています。また、町内の施設などを町内の大工が町産木材を利用して建設することにより、森林資源・経済の循環だけでなく大工の伝統技術も伝承できるようになっています。このほか、循環型のまちづくりのため、町内の小学校ではペレットボイラーによる暖房も運用されています。

### ③住みやすい町、紫波

先述のオガールタウンの住宅では、暖房や給湯のほとんどがオガールエリアの中にあるエネルギーステーションという施設で賄われており、冬期間の光熱費がかなり安く済み、とても暮らしやすいとのことでした。エネルギーステーションでは、町産木材の木質チップ（スギ、アカマツ等）によって熱源を確保していました。



### まとめ

今回の視察研修では、新エネルギーの活用や町産木材等の地産地消による有効活用によって暮らしやすく、また、将来へ継承されていく循環型のまちづくりのすがたを目の当たりにし、新エネルギーの普及等による、将来への豊かな環境の継承が急務であると感じました。

## 二酸化炭素排出ゼロ表明自治体が増えています！



### ◎2050年二酸化炭素排出実質ゼロ表明自治体が人口9,000万人を超えました！

という見出しが、先日、環境省のホームページを開いた私の目に入ってきました。9,000万人ということは全国民の7割以上になりますが、いったいどういう事でしょうか。また、二酸化炭素排出実質ゼロとはそもそもどういうものなのでしょうか。

### ◎二酸化炭素排出実質ゼロってなに？

二酸化炭素排出実質ゼロとは、地球温暖化の原因となるCO<sub>2</sub>などの温室効果ガスの人為的な排出量を、森林等の吸収源による除去量で差し引いたときに実質ゼロにするということです。これにより、地球の大気中の温室効果ガスが削減され、地球温暖化の進行を抑えることができます。

この二酸化炭素排出実質ゼロに取り組むことを表明した自治体に暮らす人口が9,000万人を超え、温室効果ガスの削減や、森林の整備等の活動が全国各地で積極的に取り組まれています。

### ◎全国各地で表明されています

二酸化炭素排出ゼロ表明自治体の一覧を調べてみると、都道府県単位で表明しているところが多いことがわかりました。北は北海道から南は九州の鹿児島まで、29都道府県が表明しており、市町村単位では233市町村が表明しています。そして、我々の住む岩手県も2019年11月27日にこの表明をしており、県内の市町村では県北の11市町村が表明しています。つまり皆さんもこの表明をした自治体の人口9,000万人の中に入っているのです。

### ◎二酸化炭素排出実質ゼロにするために

「2050年に二酸化炭素排出を実質ゼロにします！」と声高らかに表明することは、我々一人ひとりの共通認識を醸成する上で素晴らしいことですが、それに向けてどう行動するかが大事だと思えます。誰もいない部屋の照明を消す、近い距離は車を使わずに歩く、使っていないコンセントは抜いておく、皆さんのそんな小さな行動一つが未来の地球を豊かにします。

当協議会ではこれからも、どのようにCO<sub>2</sub>排出を減らしていくか、私たちに何ができるかを考えていくとともに、皆さんに情報を発信していきます！

毎年3月に開催している環境講演会は状況を見て、夏～秋の開催を予定しています。

## 地球温暖化対策に取り組む会員募集中!!

ひらいずみ地球温暖化対策協議会（略称：エコネット平泉）に入会して、温暖化対策と一緒に取り組みませんか。協議会の目的に賛同する個人・事業者・団体で地球温暖化対策に関心のある方、これから取り組みを実践してみたい方ならどなたでも入会できます。

■年会費 ■ 個人会員 500円 事業者・団体会員 1,000円

入会を希望する方は、お気軽に協議会事務局にお問い合わせください。

ひらいずみ地球温暖化対策協議会（エコネット平泉）

事務局 平泉町町民福祉課内

TEL：0191-46-5562 / FAX：0191-46-3080

